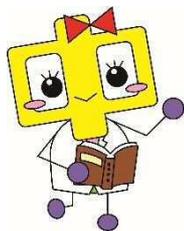
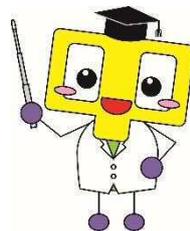


平成 28 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



なかこ



なかっち

海老名市立中新田小学校

| | |
|--------------------------|------|
| 全国学力・学習状況調査について | P. 1 |
| 「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 2 |
| 「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 3 |
| 「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」 | P. 4 |
| ご家庭で取り組んでいただきたいこと | P. 5 |



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 漢字の読み書きの正答率が高く、ローマ字を書くことにおいても、全国平均を上回っており、言語についての知識・理解・技能が定着している児童が多いです。
- 「書くこと」に関しては、全国平均を上回っており、書き手の表現の仕方や、目的や意図に応じて、書く事柄を整理することができます。

《努力を要する所》

- 「読むこと」では、目的に応じて、図と表を関連づけて読むことに課題が見られます。
- 「言語についての知識・理解・技能」において、漢字やローマ字の読み書きの無回答率が高いです。特に、ローマ字の促音、拗音などを書いたり、読んだりすることに課題が見られます。

「あさって」→「a s a t t e」

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」では、インタビューの目的に応じて質問したいことを整理することができます。
- 「書くこと」では、活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることができます。

《努力を要する所》

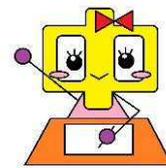
- 「話すこと・聞くこと」では、インタビューにおいて、質問の意図を捉えながら聞くことに課題が見られます。
- 「書くこと」では、引用したり、図表やグラフなどを基にしたりして、自分の考えが伝わるように書くことに課題が見られます。
- 自分の考えを書く問題では、無回答率が高くなっています。

これまでの取組から

- 「聞くこと」では、各教科の中で、聞く姿勢や聞くときの観点を絞って指導を重ねたことで、最後まで相手の話を聞こうとする姿勢が育ってきています。
- 題意を捉えながら読むことや、具体例を挙げながら書くことに関しては、引き続き努力を要する児童が多く、重点的な指導を継続します。

今後の具体的な取組について

- 書くことに慣れるために、授業の中で書く手立てを明確に示し、自分の考えを文章にする機会を、意図的に取り入れていきます。
- 目的に応じて、文章の内容を的確におさえることの指導では、様々な文章にふれる機会を増やすために、朝読書の時間を充実させていきます。
- 漢字を確実に習得するために、練習を重ねるとともに、使う機会を意図的に設定します。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算」では、整数の加法と減法、乗法と除法の相互関係を理解しています。
- 「図形」では、三角形の底辺と高さの関係について理解しています。
- 全般的に基礎的な問題は、正答率が高くなっています。

《努力を要する所》

- 「図形」では、直方体の立体図における、辺や面の平行・垂直の位置関係についての知識・理解に課題が見られます。
- 「数量関係」では、示された場面を適切に読み取り式に表すことの正答率が全国平均に比べると低い状況にあり、無回答率が高くなっています。

バスに乗る人が、バス停に一列に並んでいます。さゆりさんの前に10人、後ろに19人います。バス停に並んでいる人数は全部で何人ですか。

式 $10 + 19 + 1 = 30$ 答え 30人

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「量と測定」の分野では、用いられている考えを別の場面に適用して説明する問題で、全国平均に比べ正答率が高くなっています。
- 「数量関係」の分野では、示された事柄について、二つの表を正しく読み取ることができています。

《努力を要する所》

- 示された式に数値を当てはめて目標タイムを求める問題では、全国平均に比べ正答率が低い状況にあります。

40m走のタイムをもとに、40mハードル走の目標タイムを決めます。40mハードル走の目標タイムの決め方は、「40m走のタイム+0.4×ハードルの数」とします。
問 ハードルの数が4台、40m走のタイムが8.1秒の人の目標タイムは何秒ですか。
式 $8.1 + 0.4 \times 4 = 9.7$
答え 9.7秒

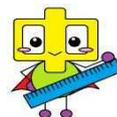
- 示された式の中の数値の意味を解釈したり、言葉や式を用いて説明したりすることの正答率が低い状況にあり、無回答率が高くなっています。

これまでの取組から

- 「数と計算」において、位に正しく着目し、位をそろえて計算することは確実性が増しています。基準量と比較量の関係は理解できていますが、図や数直線などに表して捉えられる児童はまだ少なく、引き続き指導の充実を図る必要があります。

今後の具体的な取組について

- 「数量や図形」については、具体物やICT機器を活用して視覚にうったえ、実感を伴う学習に取り組みます。また、計算を生活や学習に活用し、計算の仕方や結果を振り返って判断できるようにします。場面ごとに既習事項を活用して、簡単な場合で考えたり、簡単な図などに表したりして捉えられるようにします。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思いますか」の設問では、70%以上の児童が「当てはまる」と回答しています。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の設問では、80%以上の児童が肯定的な回答をしています。

《課題と思われる所》

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の設問では、「当てはまる」と答えた児童が10%未満で、全国平均の半分以下となっています。
- 「家で、学校の授業の復習をしていますか」の設問では、「している」と「どちらかといえば、している」と答えた児童を合わせると45%となり、全国平均を下回っています。

生活について

《よかった所》

- 「朝食を毎日食べていますか」の設問では、90%以上の児童が「食べている」と回答しています。
- 「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」の設問では、95%以上の児童が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答しています。

《課題と思われる所》

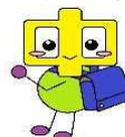
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の設問では、「参加したことがある」が30%より少なく、全国平均を下回っています。
- 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために図書室や図書館にどれくらい行きますか」の設問では、「週一回以上」と答えた児童の割合が、全国平均や神奈川県平均を下回っています。

これまでの取組から

- 毎週水曜日の朝自習「算数タイム」では、基礎学力の定着を図っています。また、算数科では、自分の考えをノートやワークシートに文や図で表現し、隣どうしやグループで伝え合うなど「自ら考えたことを伝え合う」学習パターンの定着に取り組んでいます。
- 「生活リズムチェックカード」「生活アンケート」などで自分の生活の振り返りを定期的に行うことで、規則正しい生活習慣への意識がより高まっています。また、「たてわり遊び」や「おいしい活動」など異学年交流で学年を超えた友だち関係を築いています。

今後の具体的な取組について

- 校内研究では、「子どもたちの心が育つ人間関係づくり」をテーマに取り組んでいます。子どもたちにとってクラスが安心できる場、居心地のよい場である雰囲気の中で、お互いを受け入れ、大事にし合える集団を作っていくことによって、「友だちの前で自分の考えや意見を表現すること」に対する抵抗がなくなっていくことを期待しています。
- 家庭学習では、目安となる学習の時間を学年ごとに提示するなど、家庭での計画的な学習の取り組み方について推進していく必要があると考えています。



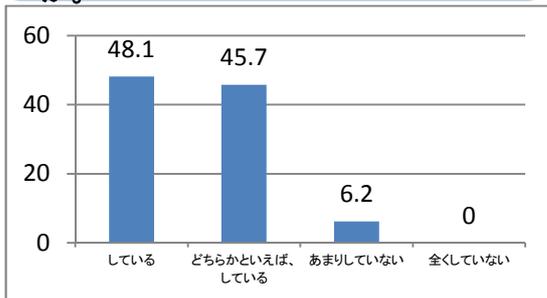
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 規則正しい生活をしましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」を実践しましょう。

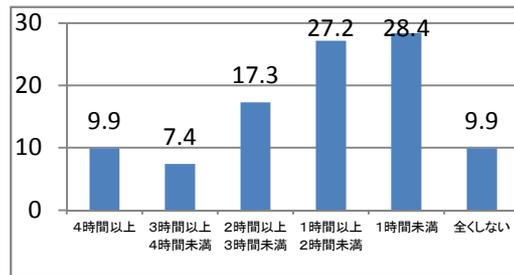
毎日、同じくらいの時刻におきていますか。



2 家庭でルールを決めましょう。

テレビゲーム、携帯ゲーム、携帯電話を使ったゲームに費やす時間を約束しましょう。

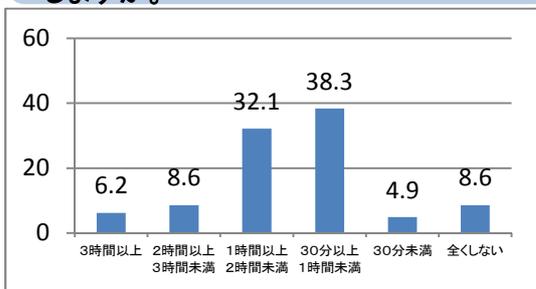
普段一日どれくらいの時間ゲームをしますか。



3 家庭学習の習慣をつけましょう。

学年×10分を目安に、家庭での学習時間を決めましょう。

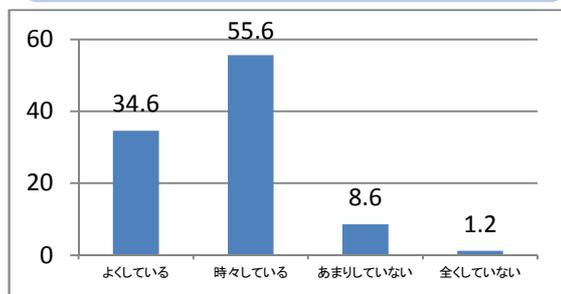
普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。



4 進んでお手伝いをしましょう。

家庭の一員として、お手伝いをする機会を増やしていきましょう。

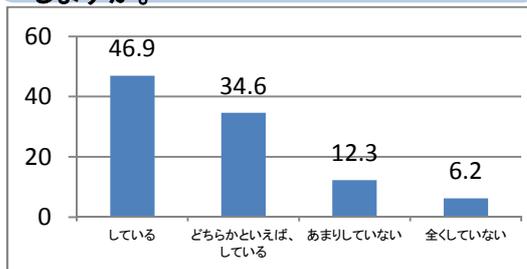
家の手伝いをしていますか。



5 子どもとたくさん話しましょう。

学校での出来事について、話をする時間をできるだけ作りましょう。

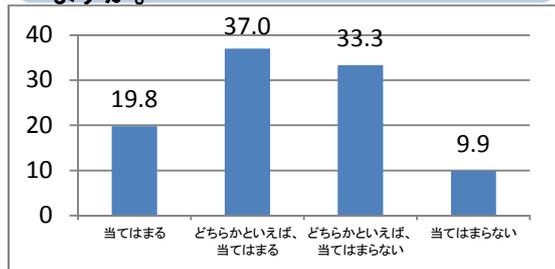
家の人と学校での出来事について話をしますか。

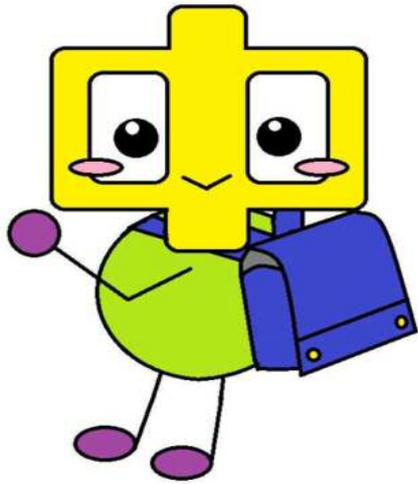
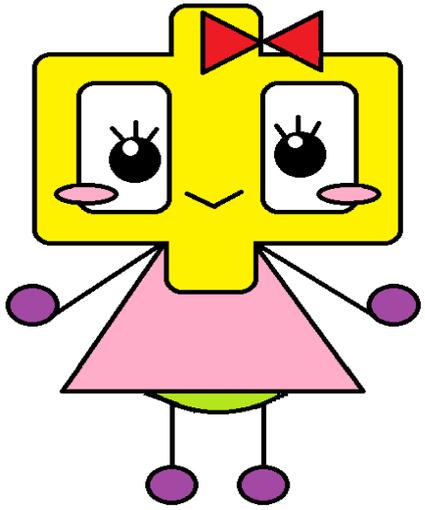


6 地域の行事に進んで参加しましょう。

地域の行事に参加して、社会の一員としての意識を育てましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成28年11月